

## スピーカー: スー・コールマン・ハセルダイン / オーストラリア非核連合

### 核実験被害者、環境活動家

南オーストラリア西海岸の先住民コカタ族の女性。母親であり、祖母であり、曾祖母であり、姉であり、叔母であり、その全て。1950年代マリングで核実験が行われていた時代にこの土地に生まれ育ち、これまでずっと故郷の土地と人々のために献身してきた。収入を管理したり、グレートオーストラリア湾で石油やガスを採掘することで、核兵器や放射能廃棄物、民族の聖なる土地で有害鉱物を採掘することや人権が侵害されることに反対している。

---

1953年から1963年の間、英国はオーストラリアで12発の原爆を爆破した。この実験の大多数は南オーストラリア州に位置するマリングとエミューフィールドで行われた。多くのアボリジナルの人々は伝統的な土地から強制退去させられた。残念ながら多くの人は核実験が行われることを知らされなかった。

私の名前はスー・コールマン・ハセルダインです。私は南オーストラリア州の西海岸にあるセドゥナ出身のコカタ族の女性です。私が幼い頃、オーストラリアでの核実験が始まりました。放射性物質が風に乗って私たちの上に舞い落ちました。モンテベロ諸島を含むオーストラリア全土で12回の実験が行われました。そのうち9回は実験当時の風向きの記録がありそれをオーストラリアの地図と照らし合わせてみました。すると、実験による放射性物質で地図は真っ黒に塗りつぶされ、英国とオーストラリア政府が残した負の遺産が見えてきました。

最初の画像は、モンテベロ諸島、エミューフィールド、マリングで実験に使用された爆弾の記録です。そしてこの画像には風向きが示されています。風向きを重ね合わせると次の画像では、オーストラリア全土に降り注いだ放射性物質が見えてきます。これがオーストラリアと英国政府の残した負の遺産です。

私たちはこれまで長い年月の間悲しみと喪失感とともに生きてきました。様々な種類のがんと闘い、出生異常もたくさんありました。私たち家族もかわいい孫を亡くしました。悲しさと喪失感に日々向き合い、それが消えることはありません。60年経ちましたが、今でも赤ん坊が原因不明の異常で亡くなっています。その赤ん坊たちを埋葬し悲しみと喪失感だけが残ります。英国とオーストラリアの政府の行動によって私たちは苦しめられてきました。70年経った今も私たちが苦しんでいることに政府は無関心です。子どもたちも苦しんでいます。世界各地の子どもたちが放射能汚染によって苦しんでいます。チェルノブイリや福島を見れば分かる通り、この有害物質は、あらゆる場所で人々を冒しています。オーストラリア政府には世界の他の国々のように核兵器や原子力潜水艦を禁止してもらわなければなりません。こうしたものの必要がなくなればウラン鉱山も必要なくなります。鉱山が閉鎖されれば放射性廃棄物の処分場も必要なくなります。処分場は爆弾と同じくらい危険です。廃棄物が流出しはじめると知らないうちに有害物質が土地を通じて私たちの周りを汚染していきます。昔起きた放射能汚染のときと同じ様に。当時は、何が降ってきたのか誰もわかりませんがその後異変を感じ始め時間が経てば経つほどその影響を感じています。私たちは今も苦しんでいます。だからこそオーストラリア政府には決断してもらう必要があります。「もう止めにしよう。私たちはオーストラリアに被害を与え、人々を傷つけてきた。採掘企業のほしいままにアボリジナルの人々を土地から追い出してきた」のだと。

ウラン鉱山会社やオーストラリアの資源を採りたい人々は皆、アボリジナルを周縁に追いやります。全く不公平です。私たちは先住民なのにすべてにおいて置き去りにされています。私たちの土地で採掘を止めることができれば自分たちの文化を守り、放射性廃棄物の処理場を止め、政府に原子力潜水艦の建設をやめるよう求めることができます。世界全体の勝利にもなります。野生動物も命を奪われていますが多くの人が無関心のです。しかし私たちにとっては重大なことです。



私は歳をとり、疲れてきましたが戦いは終わっていません。私には子どもたちや孫たち、そして、ひ孫たちがいます。彼らが立ち上がり、戦い続けます。彼らが「もうたくさん」と言います。核のないクリーンな未来を求めます。

私はジェレマイアで、セドゥナに住んでいます。核は要りません。オーストラリアに住んでいます。

歳をとり、疲れを感じるようになり、少しペースが落ちましたが私の戦いは続きます。子どもたちや孫たちが一緒に立ち上がり、こう言っています。「核ではなく、より環境に優しい未来を求めます。」

私の家族は多くの病に悩まされています。私の考えは妻の考えとまったく同じです。

それしか言うことはありません。みなさんもどうぞ気をつけて、強く生きてください。

#### おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースポートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日(日本時間)に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースポート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>